

---

## **ふろたん年表 NO.1**

- (1) 1973年3月 日本住宅公団ワンダーフォーゲル同好会誕生～**
  - (27) 2014年2月26日 「ふろたん通信」創刊号発行**
-

1973年3月16日 日本住宅公団ワンダーフォーゲル同好会誕生

# ふろたん年表

山と共に生きる地域づくりを目指して

「日本のニュータウン開発」に、創成期から携わってきた  
日本住宅公団(現UR都市機構)の「ワンダーフォーゲル同好会」は  
多摩ニュータウンで誕生しました。

NPO法人 ふろんていあタウン工房

<http://www.sun-net.cc/machidukuri/>

「多摩ニュータウン」から富士山を望む

## 1974年8月9～22日 ワンダーフォーゲル同好会最初の海外遠征

ワンゲル機関紙「渡り鳥通信」第53号(1974.8.27)に載せた最初の海外遠征報告です。

ゴビ砂漠を目指してソ連・ハバロフスクからシベリア鉄道でイルクーツクへ、南下してモンゴル・ウランバートルからホジルトに向かい高原地帯でのパオ生活。





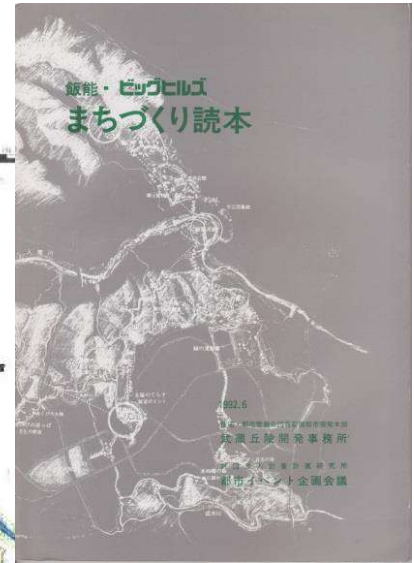
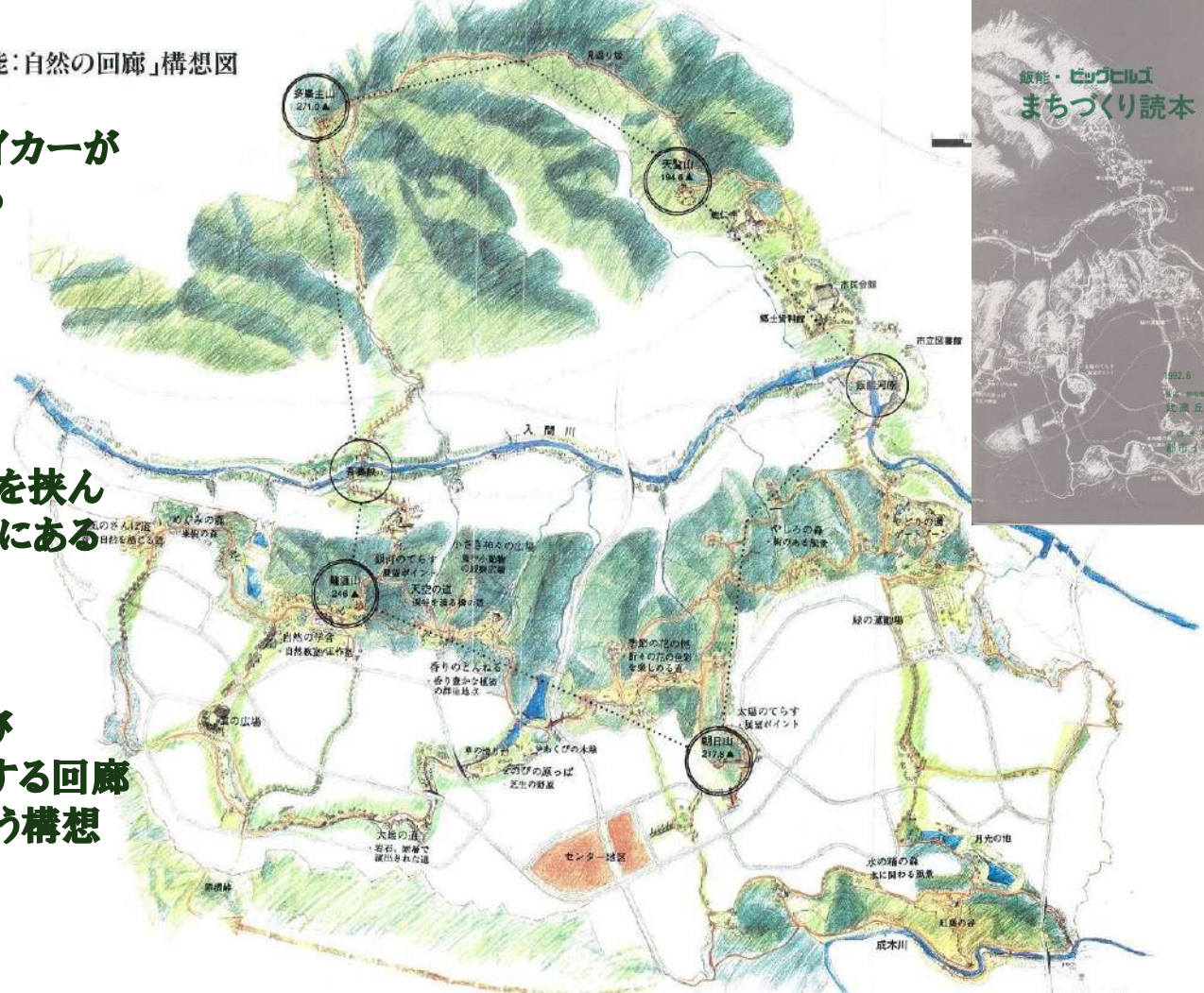
# 1992年6月 住宅都市整備公団の調査レポート「飯能・ビッグヒルズ まちづくり読本」が「飯能・自然の回廊」計画を提案しています。

「飯能・自然の回廊」構想図

古くから多くのハイカーが訪れ親しまれている天覧山と多峯主山

二つの山と入間川を挟んで対峙する丘陵地にある朝日山と龍崖山

四つのピークを結び飯能のまちを眺望する回廊を誕生させようという構想です。



1990年代ウォーターフロント開発が脚光を浴びていた時代、郊外丘陵地でのグリーンフロント環境を生かしたライフスタイルの実現を目指そうとしたレポート

# 1993.12.25~94.1.8 ワンゲル設立20周年記念 キリマンジャロ(5895M)



# 2009.7.29~8.3 ワンゲル設立35周年記念 台湾・玉山(3952M)

30周年記念は海外の準備が整わず  
35周年にズラして実施しました。

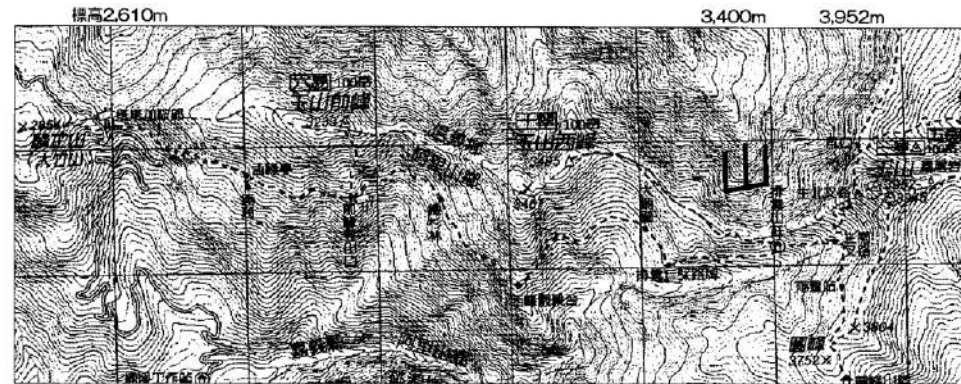


## 台湾玉山遠征記録

UR都市機構  
ワンダーフォーゲル同好会  
創立35周年記念事業



### ■ 玉山登山ルートとコースタイム



東日本大震災の日の飯能市のローカル紙が「飯能・自然の回廊」のピーク朝日山を取り込んだ「あさひ山展望公園」の完成を伝えています。

# 広々のどかな新名所

## あさひ山 展望公園 美杉台中生が整備

飯能市美杉台に、広々とした敷地から絶景が望める「あさひ山展望公園」が、4月24日に開園する。これに合わせ、美杉台中学校3年生が、自生していた樹木を加工したベンチの設置を手伝い、地域の新たな憩いの場となる公園の整備を着々と進めている。

秩父山系、さいたま新都心などが望める。

園の入口など

2か所にアケボ

ノスキのシンボ

ルツリーを植

え、ほかにもツ

ツジ、ザクロ、

モミジなどのほ

か、美杉台中卒

業生が記念樹と

して植えたヤマ

ザクラ、コナラ

なども見られ

る。地元で見ら

れる木や自生し

### 標高200メートルの絶景

美杉台中学校近く、西武バス飯能営業所北に開園するあさひ山展望公園は、標高200メートルにある、敷地面積約3万6000平方メートルの広々とした公園。天気によれば富士山、

ていた木など、様々な樹木が植えられている。

敷地内には気軽に運動が楽しめる器具、東屋、トイレなどがあり、頂上には方位を示す石が設置されている。石に書かれた東西南北の文字は、昨年、美杉台中生が書いた書をもとにしたものだ。

同園は飯能市から基盤整備事業に伴う公園整備の要望を受け、独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）が取得。昨年と今年の2か年計画で整備を進め、今年4月の開園を予定しているという。



ベンチにヤスリをかける美杉台中生ら

整備は美杉台中生も手伝い、今月8日は3年生が木製ベンチの設置を手伝い、ヤスリをかけた。このベンチは昨年、3年生らが2年生の時に、間伐した木を乾燥、専門業者が加工したものを組み立てたもので、48基中44基を生徒たちが手掛けている。ほかにも、2年生が開発の際に伐採した木を利用し、樹木にかける札を手作りし、木の名前を彫った。1年生が、伐採した木で巣箱を手作りし、美術部の生徒のイラストをもとに製作した案内板も設置される予定だ。



# 2011年11月19日 「飯能・自然の回廊」探索



都市機構ワングル同好会

## 渡り鳥通信



UR-WV No. 878号 平成23年11月25日

### □ 11月特別企画：飯能自然回廊の探索

#### 「秋雨の中、飯能自然回廊を探索しました。」

- 実施日：平成23年11月19日(土)
- 参加者：瀬川・室井・鶴見・石原・高田・朝倉 計6名
- コース：飯能駅 10:00→あさひ山 11:00→龍崖山 13:30→八耳堂 14:00(昼食)→  
吾妻峡 15:00→能仁寺→市街地/団子屋(休憩)→東・飯能駅 16:00(解散)

○序章：飯能美杉台と第2地区の間に「あさひ山公園」が今年春にオープンした。

今では遠く富士山、筑波山や東京スカイツリーまで展望できる公園として美杉台が一番の人気スポットになっている。背後(北側)には飯能らしい山が連なってハイキングコースも整備されているが、ハイカーはまだ少ない。昔「朝日山」や大河原「龍崖山」は地元で信仰的な山として祀られて初日の出には地元の方も登るなど往来もあったらしい。

- 今回の企画は、造成中の大河原「龍崖山」と「あさひ山」を結ぶハイキングコースを作ろうと、当時担当課長だった室井さんの呼びかけで、住民である高田(現在地区担当)と朝倉が加わって下見調査などしながらの登山道探索の一日企画であった。

〈参考〉 <http://www.imae.co.jp/column/2011/09/>

○雨のスタート

- 数日前から降雨確率60%、当然中止の案内すべきを、幹事M、T両名の「多少の雨だったら決行だよな」の強い一声で、直前に「有志参加」に修正。
- 予想どおりの強者6名が参加。朝10時飯能駅から雨ガッパを着込んでの行進である。逆ルートで初めに美杉台北側から登るハイキングコースまで市街地を抜ける。約30分で「あさひ山」に到着。小雨の中だが家族連れが数組登ってきた。(写真「あさひ山」→)



# 2012年2月26日 「飯能・自然の回廊」探索(第2回)

## 見晴らしピークを「燧山(ひうちやま)」と命名

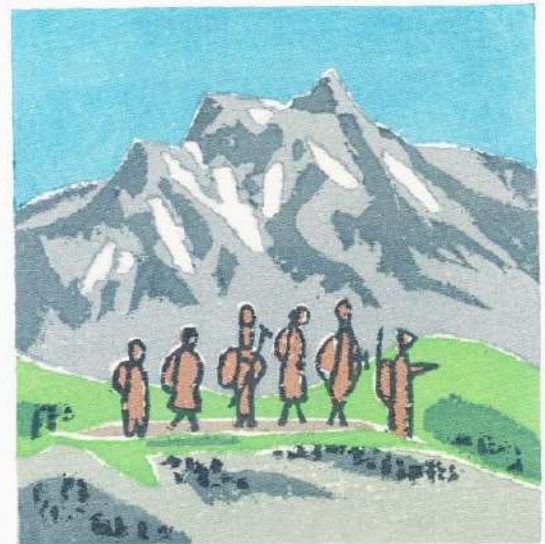


後日譚； ワンゲル同好会がスタート時からお世話になっている山の本、「岳人」の2015年7月号が「龍崖山」を取り上げて「燧山」の山名板について紹介し、「山と溪谷」9月号は、特集の[地図読みドリル]で「天覧山」を取り上げています。



燧山の山名板。裏のジョークは行ってのお楽しみ

岳人 2015 July No.817 7



特集 山岳トレイルに行く

地図を持って歩いてみよう!

### 「地図読みドリル」

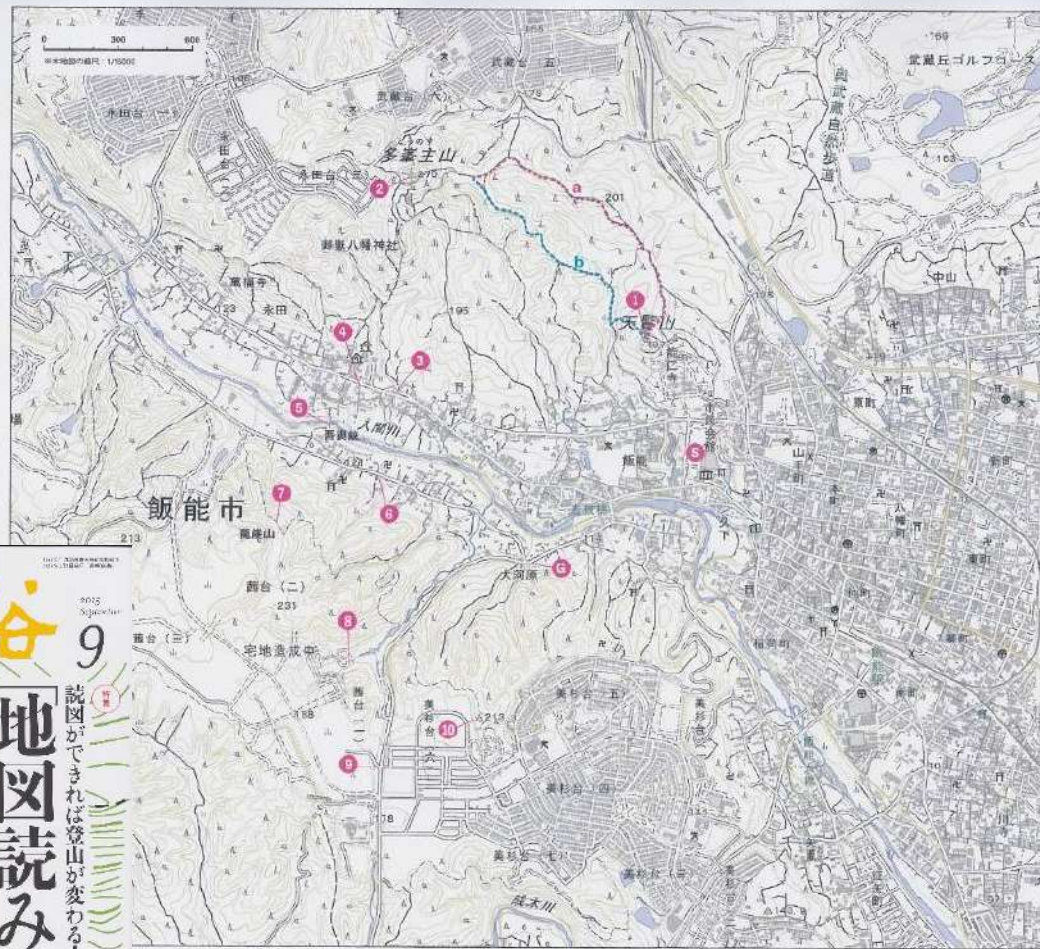
## 天覧山

(埼玉県飯能市)

①飯能市中央公園～②天覧山～  
③多峯主山～④龍崖山～⑤大河原

アップダウンが少なく、なだらかな登山。最高点の多峯主山でも標高300m足らずと地図読み練習に最適だ。課題を解きながら歩いてみよう。  
[最寄駅＝西武池袋線 飯能駅]

出典：解説＝山形利雄



課題1 山の地形図に高度7度の縮尺を引こう。

課題2 スタート地点①から天覧山②の間では、どれくらいの標高を登るか。また、何道りかのルートがあるが、それぞれどんなルートだろうか。文字が重なった部分にもよく注意して、特徴を説明しよう。

課題3 天覧山②から多峯主山③へは、a, bの1通りのルートがあるが、どちらのルートを通るか。登り、下り、距離、方向の東北などに注目して、それぞれのルートの特徴を説明しよう。

課題4 多峯主山③から沢沿いの道を④に下山し、⑤を経て百華林⑥へ。この間で、現在地を把握できる場所はどこか?

課題5 広い平野から、百華林⑥に登り始める地点⑦を、どのように特定すればよいだろうか。

課題6 百華林⑥から龍崖山⑧は、地形図上で距離が途中で変わっているが、⑧標高から登る登山道が整備されている。どんな道が続いているか、地図と実際の地形を見ながら、道を地図に書き込んでみよう。

課題7 龍崖山⑧から龍崖山公園⑨の間は、地形図に道は描かれていないが、登山道が整備されている。登山道がどんな地形を横切っているか、歩きながら説明してみよう。

課題8 龍崖山公園⑨からは大きな道へ出て、南へ登りながら⑩まで進む。杉道遺跡中でもあるので地図で描かれている道が正しいかわからない。⑩地点を特定するためにどうすればいいか。

課題9 213.3mピーク⑪からゴール地点の大河原⑫までは尾根道をたどる。一部、地形図では道が描かれていないが、ハイキング道が整備されている。コンパスで方向を確認し現在地を確認しながら進む。登山道がどの部分のルートを描き加えてみよう。

※この地図は、国土院院長の承認を得て、測量法第279条第11項の規定が適用される地図として作成されたものである。(読者番号 平均縮尺 第33号) ※この地図を複製する場合は、著者(山形利雄)の承認を得る必要がある。

山と溪谷 9

読図ができれば登山が変わる!

読図のカギは  
等高線にアリ

読本 地図読み

一人でもできる  
地図読みドリル

2013年  
シルバーウィーク満喫  
秋の連休、縦走プラン

## 2012年3月4～9日 ミャンマー連邦共和国建設省視察団来日

2011年3月の民政移管を契機にした民主化への動きと国際社会復帰に向けた期待、ミャンマーの報道が日増しに増えていく中で、2012年3月ミャンマー連邦共和国の建設省視察団7名が来日しました。翌4月の大統領来日を控えての視察団で、1週間の日程の内二日間(3月6・7日)は「筑波研究学園都市」と「多摩ニュータウン」の現地見学、現地案内のお手伝いをしたことがきっかけで、案内人メンバーが中心になって「二つのニュータウン」から「二都物語研究会」と名づけたミャンマー研究会が9月にスタートしました。



多摩ニュータウン



筑波研究学園都市

# 2012年5月12日 開通した「飯能・自然の回廊」を歩く

## 四つのピークを結び飯能のまちを眺望する回廊が開通しました

都市機構ワングル同好会

## 渡り鳥通信



UR-WV No. 888号 :平成24年5月18日



### □ 5月々例山行：飯能回廊 探索（第3回）

全参加者が新ルート（龍崖山～燧山～県道）を踏破！

- 実施日：平成24年5月12日(土)晴れ
- 参加者：安原昭子、岩本、山本、宮本\*2、室井\*2、牛久保、横山謙、鈴木俊明、鶴見、石原力、植木、新澤、高田、朝倉\*2：計17名(男11名+女6名)
- コース：飯能駅 10:10→天覧山 10:50→多主峯山 11:30(昼食)→吾妻峡 13:10→龍崖山 13:50→燧山 14:10→あさひ山 15:30→美杉台 16:30(解散)→飯能駅北口(有志で反省会)

### ○スタート前・・・

- ・前回は、南側の新ルート開拓のみだったが、今回は入間川北側の天覧山～多主峯山も含めた飯能自然回廊の南北全ルート歩く自然回廊/全通記念/企画である。参加者も関係者でもある現役メンバー(高田・植木・新澤)に事務所OB(横山・鈴木・室井)と緑チーム(鶴見・石原)に地元(高田・朝倉)が参加。安原さんは10数年ぶりのワングル参加であった。



### ○飯能駅をスタート・・・

- ・駅南口からブラブラと市街地・寺・墓地を抜け、登山口からは15分程で天覧山山頂に到着した。コンクリート造の見晴らし台は10数名のハイカーが、南に奥武蔵の山並みと富士山はあいにく見えなかったが東京スカイツリーをぼんやりと東遠方に見ることができた。



### ○多主峯山で昼食・・・

- ・天覧山から多主峯山へは、「ママシに注意！」と「笛の音」に誘われて、一旦湿地帯に下り、常盤御前の「見返り坂」から山頂へと登り坂が続く。脇道を10数名トレッキングランナーに追い越され、標高271mの山頂に到着。山頂には木製テーブル・簡易ベンチ数基と石墓があり、20数名のハイカーが休憩・昼食中。我々も少し早目の昼食をとる。U+S 両氏は女学生6名に囲まれたベンチでの楽しい昼食となった。⇒写真



# 「飯能・自然の回廊」の4つのピーク



「龍崖山」



# 2013年3月25～31日 ワングル設立40周年記念ビクトリア山 (3053M)

## 報告を載せた都市機構ワンダーフォーゲル 同好会の機関紙「渡り鳥通信」第910号



都市機構ワングル同好会

# 渡り鳥通信



UR-WW No. 910号:平成25年4月15日

□ 3月々例 Wanderung 報告

40周年記念事業「MT.VICTORIA PROJECT」

ミャンマー・ビクトリア山・第1次調査登山

「飯能の登山道づくりの次はミャンマーの山小屋づくり」と呼びかけていましたが、龍崖山公園が完成し、飯能の地区の事業完了記念式典が行われた3月24日の翌日に出発するというめぐり合わせになりました。山小屋づくりは時間がかかりそう



なので息子二人を同行させたら、江頭さんにはお孫さん二人が随行、記念事業にふさわしい 多世代プロジェクトを予感させるスタートになりました。

日程 ; 2013年3月25日(月)～31日(日)

メンバー ; 室井+3(惟知・斐呂・伊斗子)

江頭+2(一馬・猪川洸太郎)

コースタイム ;

3/25 13:55 発の大韓航空で成田発、ソウル(仁川)経由でヤンゴン着 22:45 日本とミャンマーは時差2時間半なので現地時間では26日 1:15 ホテルで仮眠 (以下現地時間で表示)

3/26 4:30 ホテル発 6:30 発のヤンゴン航空の国内便で

バガン(ニャンウー空港)着 8:00 パジェロの中古車3台に分乗し陸路(ほとんど悪路)8時間の旅チン州へ向かう。カンパレツ村とのほぼ中間点にあるマグエ管区アイジー村の食堂で昼食。我々のビクトリア登山のベースであるカンパレツ村のパインウッドピラ着 16:00 自家発電の電灯は10時消灯







**ビクトリア山登山口で  
ナマタン国立公園のJICA植物調査  
を担当された  
アース・ウォッチ・ジャパンの  
安田重雄さんと偶然出会う**

**日本ミャンマー協会ヤンゴン事務所の  
テッセインさんと  
ピース・イン・ツアーのガイドの  
ウィメンティさん**



**ビクトリア山登山道調査； 花と緑の山の環境を守り育てるためのルールづくり、自然を愛する多くの旅行者をどのように迎え入れ、 緑の保全・登山道の改良をどのように進めるか**



**カンペレ村生活調査；山と共に生きる山麓の村の生活を向上させる村おこしへの取り組みをミャンマーの人たちと一緒にどのように進めるか**



**遠征登山から帰国後、ミャンマーの辺境(フロンティア)の地での「山づくり」(山の魅力を高める環境保全活動)と「まちづくり」(山麓の村の生活を向上させる地域おこし活動)に取り組む団体「ふろんていあタウン工房」の設立を目指すことになりました**

# 2013年7月19～27日 ワングル設立40周年記念モンブラン (4810M)

設立40周年記念登山は、「モンブラン」との  
選択制ダブル登山として行いました。



後発隊 2013年8月9～17日

都市機構ワングル同好会

## 渡り鳥通信



UR-WV No. 917 :平成25年8月8日

□ UR-WV 40周年記念事業

◇ヨーロッパアルプス最高峰

### 『モンブラン登頂 (4810m)』 (先発隊 9日間)

先発隊

■日 程 平成25年7月19日(金)～27日(土) 9日間

■参加者 瀬川基之、牛久保亮一、牛久保悦子

後発隊

■日 程 平成25年8月9日(金)～17日(土) 9日間

■参加者 阿久津賀央

今回のモンブラン参加者は4名。仕事等の都合上、先発隊、後発隊の2隊に分散して実施することにした。

このメモは先発隊に加わった牛久保亮一の記録である。

「モンブラン登山」

1日目7月22日 朝 7:25 サン・ジェルベからケーブルでモンブラン登山口ニ・デーグル(標高 2372m)へ。8:30 登山開始。急な岩稜の道をジグザグに登る。聞いていたとおりかなりの歩行スピードだ。10:20 テート・ルース小屋(標高 3172m)。ここまででかなり疲れた。大雪渓手前でアイゼンを着け、ガイドとアンザイレンし先ずはこの大雪渓をトラバース。左上から雪渓の上を落石が音もなく落ちてくる。その数の多いのには驚いた。さらに岩稜を越え滑落事故の多いクールワールの雪渓をトラバース。途中水が流れていて前後の凍結には注意。

2013年9月21日 「ふろんていあタウン工房」設立発起人総会

## 今までのワングル同好会の海外遠征記念登山

設立20周年 「キリマンジャロ」	1993.12.25～94.1.8	7名
設立35周年 「玉山」	2009.7.29～8.3	7名
設立40周年 (第1弾)「ビクトリア山」	2013.3.25～31	7名
(第2弾)「モンブラン」(先発隊)	2013.7.19～27	3名
(後発隊)	2013.8.9～17	1名



「ワングル同好会」スタート時のマーク

現在のマーク

# ワゲル50周年は何処へ行こうか！

## 三(三)角定規トレッキングツアー

ワンダーフォーゲル(遠り鳥)キミは何処の「自然」を目指して羽ばたくのか



何処がいいかな…??

2014年2月22日 「フロンティアまちづくり読本」発行

ニュータウン転生レポート

「フロンティアまちづくり読本」

定価1,200円+税

NPO法人の設立前に発刊した「フロンティアまちづくり読本」は、1960年代から相次いでスタートした日本のニュータウンの推移を、「多摩ニュータウン」と「筑波研究学園都市」の二つのニュータウンを中心に「全国総合開発計画」の変遷に重ね合わせてクロス分析しまとめたレポートです。

ミャンマーの隣り合う管区と州が手を繋ぎ共に成長する国土計画の夢を、「ビルマの縦軸構想図」に描き、本の表紙にも背景のイラストとして載せています。

ニュータウン転生レポート  
「フロンティアまちづくり読本」

日本のニュータウンの歴史を振り返り  
ミャンマーの辺境の村の  
“山と共に生きる地域づくり”を考える本

朝倉 正浩  
荒川 俊介  
迎 尚子  
室井 隆良

# 「集落の教え」

山の姿に似せて集落の姿をつくれ。山が見えるのではなくて、山に反射する光が見えるのだ。だから山の変容に注意しなくてはならない。



「32」山  
山の姿に似せて集落の姿をつくれ。  
山が見えるのではなくて、山に反射する光が見えるのだ。  
だから、山の変容に注意しなくてはならない。

Valdés (バルディエス) コロンビア・国産 10-00

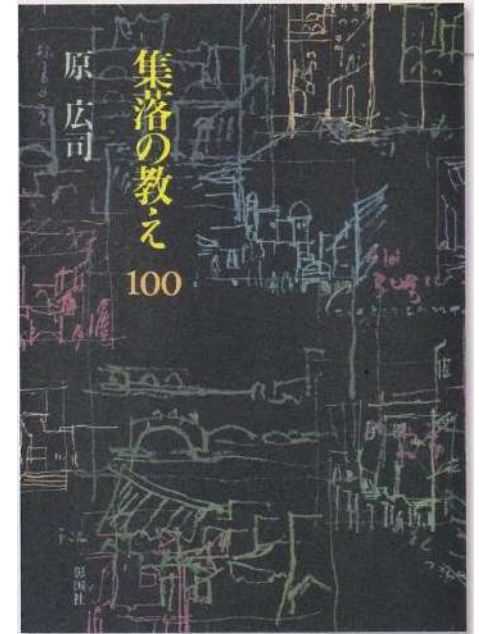
地形の最も日常的な把握として、山と谷がある。丘陵、小山あるいは丘の地形を領域として展開されている集落も少なくない。この場合、集落の全貌が同様に広がっている。その集落の組立てがもつ意味もわかりやすくなる。集落の教えのひとつは、空間の組立て、構造がわかりやすく提示されるように集落や都市をつくる方法を考察することの示唆である。

もうひとつの教えは、集落は集団の諸活動の場（5章）である。この示唆である。場は、公衆の地形を超越する。この公衆の地形を最も単純に捉える概念が、山なのである。たとえば、教会やメダカを丘の頂上に配した集落は、聖なる空間として仮想された地形と実際の地形とを一致させた事例である。それゆえ、集落の空間構造が、山の地形によって可視的になるのである。

地形は平坦で変化なくとも、たとえ距離のたみの風車を高く置いて並べれば、それは生産の集団活動の中心部であること、集落活動の（公衆の地形）の山のプレゼンテーションとなる。たとえばまた、中央南米の離散型集落のように、休耕地に適切な距離をもつて配置すれば、小さな山が住居を中心として仮想され、そうした小山が点在する仮想の地形が出現する。集落は単なる建築的な風景ではなく、場としての風景を私たちはそこに見るのである。つまり、集落の見え方は、フィジカルな見え方としてあるのではなく、さまざまな場のもつ意味をもった風景の見え方としてある。そして、見え方は、私たちそれぞれの観測者に依っている。

そして実現の活動の場の状態は、刻々と変化して「公衆の地形」としての場、山や谷もまた生きていくのである。

写真集は、コロンビアの峻険に拍って築かれた集落。「32」に示す谷間の集落と対になっている。



国土の均衡ある発展・限界集落はつぐらない

「フロンティアまちづくり読本」の内表紙の裏には「集落の教え」を載せています

## 「フロンティアまちづくり読本」のプロローグより

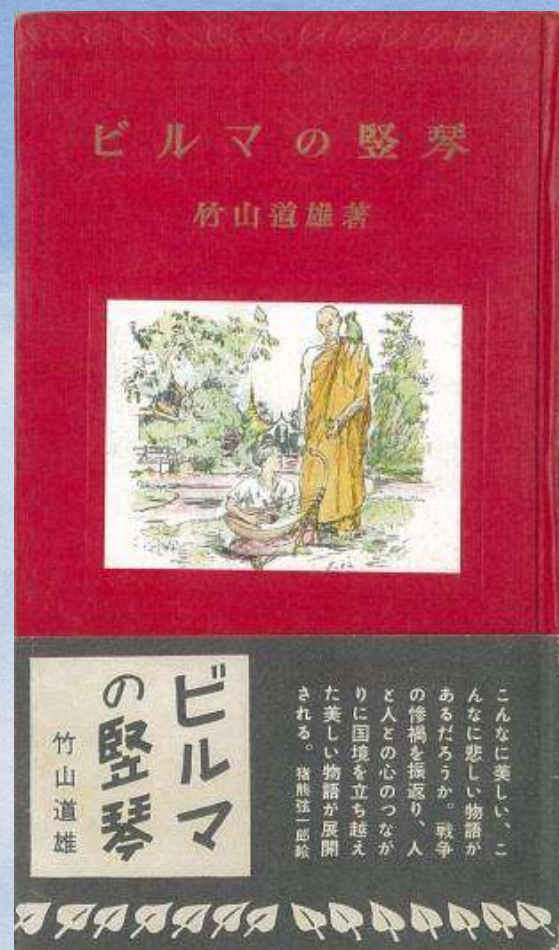
ミャンマーはこれから経済成長期を迎えて急激に変貌しようとしています。大都市圏での雇用拡大・人口集中・増加が予想される中で、北の高原山岳地帯から南の臨海部まで、多くの少数民族を抱える多民族国家であるミャンマーにとっては、国土の均衡ある発展を如何に図るかは非常に大切なテーマだと思います。

「多摩ニュータウン」や「筑波研究学園都市」を手掛けた日本住宅公団(現UR都市機構)は、戦後10年目の1955年に設立され、第1号団地(金岡団地・稲毛団地)が世に出た1956年は、経済白書が「もはや戦後ではない」と謳い、日本が国連に加盟した年です。そしてその年は市川昆監督の旧作の「ビルマの豎琴」が上映された年です。

日本とミャンマーとは、ビルマの時代からの長い歴史の中で深い交わりがあった国です。「集中」と「スピード」だけでなく「広域的」で「長期的」な視点に立って、諸外国とは違う日本発の「息の長い技術協力」を見つけてみたいと思います。

そしてエピローグには

ビクトリア山プロジェクトのロードマップと、1992年の「飯能ビッグヒルズまちづくり読本」に、南條道昌さんが書いたあとがきの抜粋を載せています。





## 「ビクトリア山プロジェクト」ロードマップ(行程表)

### 〔STEP1-1 ナマタン国立公園事務所に協力〕

ナマタン国立公園内のビクトリア山と山麓地域一帯の自然環境を保全し、ビクトリア山の森を守り育てるルールづくりと、環境整備計画づくりに取り組みます。

### 〔STEP1-2 日本の旅行社と連携〕

ボランティア活動による登山道整備や、自然教室での体験学習などのメニューを取り入れた新しい形態のトレッキングツアーを企画し、村の人たちとの交流を深めてビクトリア山を守り育てるルールの周知を図るとともに、村おこし技術の掘り起こしに取り組みます。

### 〔STEP2 生活の向上を目指す村おこし〕

自然を愛する多くの旅行者を迎え入れて、ビクトリア山の魅力を高める新たな形態の観光産業の振興を図り、それと連携する地域産業の育成・村の生活の向上を目指します。

### 〔STEP3 友好交流拠点「山小屋」づくり〕

「ビクトリア山プロジェクト」の参考になる活動を行っている日本の町・村との交流活動を進め、日緬友好交流の拠点施設づくりを計画、ビクトリア山の森を守り育てる持続的な活動を行う、「ビクトリア山・山小屋」構想の実現を目指します。

1992年に書かれた「飯能ビッグヒルズまちづくり読本」のあとがきの中にある南條道昌さんの言葉を、

2014年発刊の「フロンティアまちづくり読本」のエピローグに掲載。

「共通の約束事を守ってともに生きていく仕組み」

南條 道昌

ニュータウンや団地の生活は、確かに核家族のマイホームという家制度からの解放や自由を手に入れる道具だてでした。しかし、個々の人生と都市社会との暖かな関係の数々を生む様なプログラムが全くビルトインされていなかったために、家庭の崩壊や高齢化生活の問題などが起こっています。かと言って、経済の仕組みや教育の内容程度が江戸時代とは全く異なるのですから、今の人たちの人生に十分納得のできる満足な価値観を創れるとは到底思えません。

新しい知識や社会の仕組み、その数の大きさ、技術の高度化などに対応した新しい暮らしの文化が、いま求められている、否、創り出そうとする息吹があちこちに見られる時代にさしかかっているとと言えるでしょう。

文化とは、人間が自然に対峙し、その暴力的な面をしのぎ、やさしさや壊れやすさを受け補修し、共存していくための知恵や工夫の数々です。そして文明とは、人間と人間の衝突を避け、やわらかくし、皆が共通の約束事を守ってともに生きていくための仕組みです。

「まちづくり読本」(住宅・都市整備公団調査レポート)



2014. 2

“元祖”まちづくり読本 「飯能ビッグヒルズまちづくり読本」から、22年の歳月を経て出版した「フロンティアまちづくり読本」の‘或るコダワリ’  
表紙のデザインから章立て・ページ数まで編集スタイルがそっくりな姉妹本に！

## 飯能ビッグヒルズ まちづくり読本

まえがき

I. ビッグヒルズの位置と時代

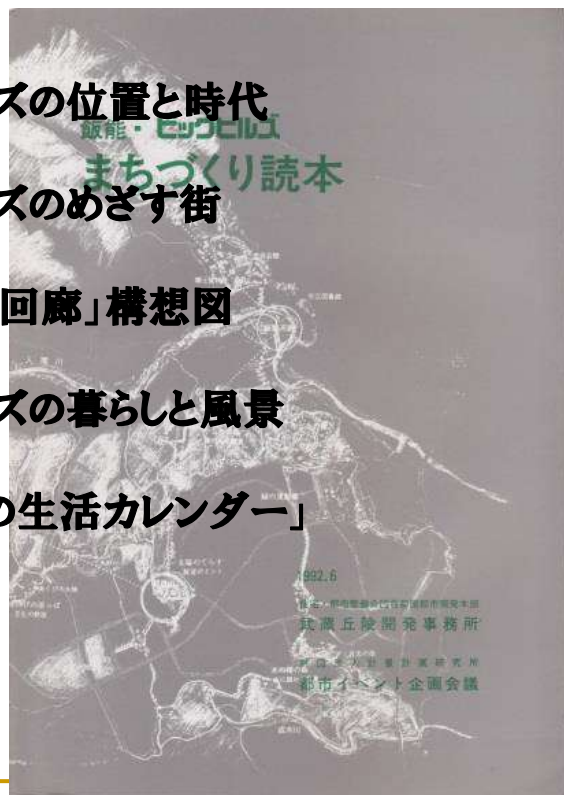
II. ビッグヒルズのめざす街

「飯能：自然の回廊」構想図

III. ビッグヒルズの暮らしと風景

「ビッグヒルズ的生活カレンダー」

あとがき



59P

1992. 6

## ニュータウン転生 フロンティアまちづくり読本

プロローグ ーアジア最後のフロンティアー

I. 第1ステージ ーニュータウン転生レポート

フロンティアまちづくり読本  
国土利用計画年表(前半)

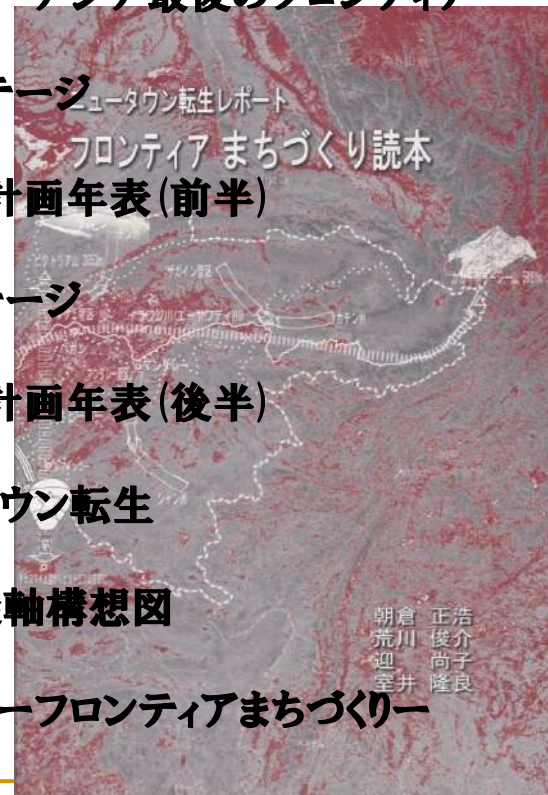
II. 第2ステージ

国土利用計画年表(後半)

III. ニュータウン転生

ビルマの縦軸構想図

エピローグ ーフロンティアまちづくりー



59P

2014. 2

朝倉 正浩  
荒川 俊介  
迎 尚子  
室井 隆良

# 2014年2月26日 「ふろたん通信」創刊号発行

ふろんていあタウン工房

## ふろたん通信



2014年 2月26日 広報センター

No. 1

### MT.VICTORIA PROJECT

## 3月14日 ビクトリア山・現地調査に出発!

#### □機関紙創刊号です。

昨年3月に設立40周年記念としてミャンマー遠征ビクトリア山登山を行った、URワングル同好会がスタート時から発行している機関誌「渡り鳥通信」は、1973年3月20日付の創刊号からの最新号のNo.932(2014.2.13)まで続いています。それに倣って、NPO法人設立を目指していた2月に、最初の現地調査隊のメンバー紹介する機関紙創刊号発行の準備を進めていましたが、予想外の再申請手続き、認証時期が先に延び、頭に“NPO法人”がつかない「ふろんていあタウン工房」の機関紙「ふろたん通信」創刊号の発行ということになりました。

#### □調査隊メンバーと今回の現地調査活動

登山口でモタモタしているような感じになってしまいましたが、気を取り直して元気に、現地調査隊を送り出しましょう。3名の少数精鋭調査隊です。ふろんていあタウン工房(URワングル同好会)から赤川勉調査隊長。当初から連携活動をお願いしていたNPO法人まちナビ倶楽部からは、二人の大ベテラン、森角武久さんと三宮満雄さんが参加されます。(3.14~3.20)

ビクトリア山の「花と緑の登山道マップ」作成に向けた現地調査と、啓発活動資料として作成中の小冊子「公園の登山道」について国立公園事務所スタッフの方達と意見交換をします。今までナマタン国立公園の植生調査を行ってきた牧野植物園スタッフにもお会いします。帰りのヤンゴンでは、色々と協力頂いている日本ミャンマー協会の現地事務所も訪問する予定です。

#### □壮行会に、ご参加ください!

- 日時:3月4日(火) 18:30~21:00
- 場所:「びるまの壺琴」(渋谷区恵比寿2-8-13 Tel.03-5420-1686)
- 会費:2,000円 ※出席される方は3/3迄に高田幹事へ連絡を(090-4824-2176)

#### □「ふろんていあタウン工房」会員メンバー

再申請届出日現在の会員メンバーです。

「正会員」 室井隆良 瀬川基之 安原昭子 浜崎良治 森田忠志 赤川勉 朝倉正浩  
高田睦夫 安村孝志 宮本保宏 鶴見隆志 (以上発起人メンバー) 山本稔

「賛助会員(個人)」 安田重雄

「賛助会員(団体)」 株式会社ピース・イン・ツアー 株式会社アルテップ 有限会社プラディ・アソシエイツ

#### □フロンティアタウンシップ

「URワングル同好会」メンバーを中心に設立した「ふろんていあタウン工房」は、趣旨書に書かれてあるように、郊外の新しいまちづくり・環境づくりで培った日本のニュータウンの開発技術を活かし、ミャンマー国の辺境(フロンティア)の地での「山づくり」(山の魅力を高める環境保全活動)と「まちづくり」(山麓の村の生活を向上させる地域おこし活動)に取り組む団体を目指しています。会員の心得「フロンティアタウンシップ」について書いた本をつくり、入会の際にお渡ししています。



#### □国内では、まず会員拡大活動

- 「賛助会員(個人・団体)」の勧誘:山好きの人間に限らず、ニュータウン事業経験者・都市計画コンサルタントなど幅広い方々に声をかけ、ボランティア活動の仲間を集めましょう。  
※YESの方には「フロンティアまちづくり読本」を贈呈 NOの方には書籍購入のお願い
- 「まとめ買い」をお願いできる団体さがし
- 「賛助会員」で積極的な参画が期待できるメンバーには、漸次「正会員」への移行を要請

#### □NPO法人発足に向けた体制づくり

広報センターのバックアップ体制をつくり、機関紙発行等の広報活動を積極的に推進、事務局体制のスタッフ強化も図ります。会員相互の情報交換の定例会を、毎月第3木曜日に恵比寿の「びるまの壺琴」で行います。18時から21時半頃まで必ず誰かがいますので、時間がある方は気軽に顔を出してください。(第3木曜なので「山木会(サンモクカイ)」と名づけました)

#### □寄付金ありがとうございました。

発起人メンバーの安原さんから「広報活動の費用に」と、3月11日に三回忌を迎える勲さんとの“ご夫婦での寄付金”をいただきました。右の写真は、今回の調査活動資料「公園の登山道」で日本の国立公園紹介として載せている「尾瀬ヶ原(1985)」。ワングルメンバーの中にお二人の姿も見えます。

